

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 いわき市立湯本第一中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III
2 実施対象者 (学年・人数)	いわき市立湯本第一中学校 全校生徒 266名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育、総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学びとともに、おもてなしの心を育み、インクルーシブな社会（共生社会）の構築を目指そうとする態度を育成する。
5 取組内容	(1) おもてなしの心に関する講話 職場体験学習において、企業（湯本温泉旅館等）におけるおもてなしの精神に関する講話をしていただいた。  (2) ボッチャ体験授業 外部から講師を招聘して、全学級に対して保健体育の授業を活用し、ボッチャについて、講義と体験をした。  (3) オリンピアン体験を通じた講演 シドニーパラリンピック車いすバスケットボール銅メダリスト増子恵美さんの「東京2020を目指す社会」と題し

	<p>た講演を行った。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) おもてなしの心に関する講話 職場体験の際、旅館の方からお客様に対する心構えやマナーのお話をいただき、それを踏まえた体験を行った。その結果、学校生活や家庭生活の中で来客等に対して意識して行動することができるようになってきている。</p> <p>(2) ボッチャ体験授業 ボッチャの体験を通して、普段、感じているスポーツの得意・不得意の生徒の差を感じず誰でもできるスポーツであることを実感することができた。また、チーム内での作戦の話合いを通して、仲間意識を深めることができた。</p> <p>(3) パラリンピアン体験を通じた講演 パラリンピックの歴史、選手として活躍するまでの経緯等を通してパラリンピックや障がいに対する理解を深めることができた。また、夢を実現させるためにどのような取組をする必要があるかの話については進路実現に関連して生徒たちにより刺激となった。</p>
<p>7 実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>一つの行事が単発で終わらず、この事業での取組、他の行事と関連づけるとともに、全体を通して生徒の心を育み、教育目標の実現を目指すものとする。</p> <p>(1) おもてなしの心に関する講話 例年行われている職場体験において、おもてなしという面に視点を当て指導していただくように各職場において担当教員が打合せを行い実施することにより、焦点化を図ることができた。</p> <p>(2) ボッチャ体験授業 次年度の自校のカリキュラムや市中体連事業の検討ができるよう本校教員や他校の教員が参加・見学できるようにした。</p> <p>(3) パラリンピアン体験を通じた講演 パラリンピックや障がいに関する理解にとどまらず、講師が夢を実現させるためにどのようなことをしてきたかを説明していただいた。これは、講師が白石豊教授(朝日大学)の指導を受けており、また、昨年度、本校では白石豊教授の講演を行っていたため、夢の実現のための理論と実践がつながるような講演にしたのである。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>(1) 生徒にこの事業を通して育成された態度が実際の場面で生かされているか検証していく必要がある。</p> <p>(2) 今年度の実践を次年度のカリキュラムにどのように生かすか教育課程編成の際、議論を重ねていく必要がある。</p>

9来年度以降の 実施予定	<p>(1) おもてなしの心に関する講話 職場体験の時には、今年度同様、職場の方からお話をいただけるようにする。</p> <p>(2) ボッチャの授業 特別支援学級において、ボッチャの学習を行う。</p> <p>(3) 夢の実現のための学習を行う。</p>
-----------------	--